



2020年5月29日

各位

会社名 曙ブレーキ工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 宮地 康弘
(コード：7238、東証第一部)
問合せ先 経理部長 岡田 拓信
(TEL. 048-560-1501)

**(連結・個別) 特別損失の計上及び
2020年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ**

当社は、連結決算及び個別決算において特別損失を計上し、また2019年11月12日に公表した2020年3月期通期連結業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 連結決算の特別損失(事業構造改善費用)

生産終了・閉鎖を予定している米国2工場のたな卸資産の評価損を、事業構造改善費用1,017百万円として計上しました。

2. 個別決算の特別損失(関係会社株式評価損及び貸倒引当金繰入額)

当社が保有する子会社の株式の実質価額及び関係会社短期貸付金の回収可能性が著しく低下しているため、以下の特別損失を計上しました。

関係会社株式評価損	557百万円
曙ブレーキ山陽製造株式会社(日本)	328百万円
曙ブレーキ山形製造株式会社(日本)	100百万円
A&M Casting(Thailand) Co., Ltd.(タイ)	129百万円
貸倒引当金繰入額	10,001百万円
Akebono Brake Corporation(アメリカ)	7,684百万円
曙ブレーキ山陽製造株式会社(日本)	518百万円
曙ブレーキ山形製造株式会社(日本)	1,544百万円
Akebono Europe S.A.S.(フランス)	255百万円

なお、これらの特別損失は、個別決算のみで計上されるものであり連結決算では消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

3. 2020年3月期の通期連結業績予想値と実績値との差異（2019年4月1日～2020年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	196,400	2,800	400	—	—円—銭
今回実績（B）	193,317	3,707	1,121	24,855	186円34銭
増減額（B－A）	△3,083	907	721	—	
増減率（％）	△1.6	32.6	180.3	—	
（参考）前期実績 （2019年3月期）	243,668	215	△2,808	△18,264	△137円09銭

（差異の主な理由）

2019年11月12日付の「特別損失（減損損失・事業構造改善費用）の計上及び通期連結業績予想に関するお知らせ」で公表の予想値に対して、売上高は概ね前回予想どおりでしたが、利益面では労務費減少や経費削減などが想定を上回り、営業利益37億円、経常利益11億円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は未定とさせていただいておりましたが、今回実績において249億円となりました。

内容については以下のとおりとなります。

（1）売上高、営業利益及び経常利益

日本

売上高は概ね前回予想どおりの721億円でしたが、営業利益は役員報酬及び従業員給与の削減、経費などの固定費の削減を含めた構造改革の効果が前回予想を上回り27億円となりました。

北米

売上高は、完成車メーカーの主要車種の新規モデルへの切り替えが想定以上に早く進んだことにより前回予想を下回る783億円となりましたが、営業利益は原材料市況変動による材料費の減少や人員減にともなう労務費の減少、経費などの固定費削減、事業再構築のための様々な施策により前回予想を6億円上回る△35億円となりました。

欧州

売上高は、高性能量販車の受注減少により12億円ほど前回予想を下回ったものの、営業利益は生産性及び品質向上による合理化や経費削減により前回予想を上回る結果となりました。

アジア

売上高は、中国やインドネシアにおいては概ね前回予想どおりでしたが、タイにおいて一部完成車メーカーの撤退などにともない、アジア地域全体で441億円となりました。一方、営業利益は売上減少影響があるものの、人員減にともなう労務費の減少や経費削減などにより概ね前回予想どおりとなりました。

また、営業利益が前回予想を上回った影響により、経常利益は11億円となりました。

(2) 親会社株式に帰属する当期純利益

前回公表時点においては、年度末までの事業再生計画の各施策の実施タイミングを見極めることが難しい状況にあり、親会社株主に帰属する当期純利益については、未定とさせていただいておりましたが、第3四半期以降、以下の主だった施策について適宜に特別損益を計上いたしました。

(主な施策の2020年3月期第3四半期以降の特別損益項目は以下のとおりです)

- 日本・固定資産売却益 約57億円(2020年2月13日開示)
- 米国・固定資産減損損失 約9億円(2020年2月13日開示)
- 日本・早期退職措置 約8億円(2020年3月24日開示)
- 米国・たな卸資産評価損 約10億円(2020年5月29日開示)

ご参考：地域別の前回予想と今回実績との差異

(単位：億円)

	売上高				営業利益			
	前回予想	今回実績	増減額	増減率	前回予想	今回実績	増減額	増減率
日本	725	721	△4	△0.5%	26	27	+1	+5.1%
北米	794	783	△11	△1.3%	△41	△35	+6	—
欧州	154	142	△12	△7.5%	△1	1	+3	—
アジア	450	441	△9	△1.9%	42	41	△1	△3.0%
連結消去	△158	△154	+4	—	2	3	+0	+10.7%
合計	1,964	1,933	△31	△1.6%	28	37	+9	32.6%

為替レート：1ドル=109.2円、1ユーロ=120.9円

以上